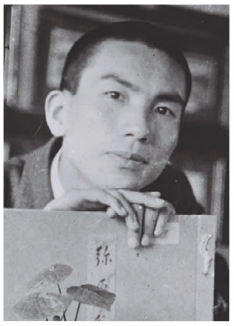
南吉

童話作家・新美南吉のふるさと、半田。
南吉が生まれ育った岩滑(やなべ)の「南吉の里」では、
南吉童話の原風景と南吉の愛した花々がお出迎えします。



新美南吉(1913〜1943)

童話「ごんぎつね」や「手袋を買いに」「でんでんむしのかなしみ」の作者として知られる児童文学者。
大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。
幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。
その後、教員をしながら執筆を続け、昭和18年3月22日、結核のため、29歳で世を去る。

童話「ごんぎつね」に登場する中山さまの城跡と言い伝えられてきた場所であり、南吉文学に描かれた里山の自然に触れられる森です。

新美南吉記念館 D-4

新美南吉の自筆原稿や書簡などを収蔵する記念文学館。
「ごんぎつね」の舞台となった地に建てられています。
童話の森には、作品に登場する植物が観察できる遊歩道があります。

DATA
TEL 0569-26-4888
住 半田市岩滑西町1-10-1
営 9:30〜17:30
休 月曜日、第2火曜日(祝日・振替休日は開館、その翌日休館)、年末年始
料 210円(中学生以下無料)、団体20名以上は1人170円

南吉の里でのイベントは、年間を通じて開催されます。

●貝殻忌(南吉の命日) 3月22日
南吉さんを偲びイベントを開催。
●南吉さんの蛍まつり6月下旬
南吉さんの童話「木の祭」の一場面のように蛍が飛び立ちます。
●南吉さんの日(南吉の誕生日) 7月30日
南吉さんの誕生を祝うイベントを開催。
●ごんの秋まつり 9月下旬〜10月上旬
「ごんぎつね」の一場面のように、矢勝川堤に300万本の彼岸花が咲き誇ります。

新美南吉童話
イメージキャラクター
ごん吉くん

矢勝川堤の彼岸花

南吉がよく散策した矢勝川の堤。秋になると、東西約1.5kmにわたって300万本の彼岸花が咲き誇ります。周辺には菜の花やコスモスが咲き、四季を通じて南吉童話の里を美しく彩ります。

ででむし広場
徒歩15分
約1.2km
新美南吉記念館
徒歩17分
約1.5km
約3km
約15分
名鉄知多半田駅
徒歩16分
約1.2km

南吉の養家・新美家 (公益財団法人かみや美術館分館 南吉の家)

南吉は幼少期、母りゑの実家新美家に養子に出され数か月暮らしました。
Tel:0569-29-2626(かみや美術館) 住:半田市平和町7丁目60番地
休:事前予約いただいた都度、打ち合せた日時に開館
料:大人・小・中・高校生 300円

ごんぎつねの湯

総檜造りの純和風天然温泉。日本庭園を眺めながら入浴できます。
Tel:0569-27-8878 営:10:00〜22:00
休:第2・4月曜日 料:大人800円 子ども400円
幼児200円 3歳以下無料